

《모든것을 아이들의 성장과 행복을 위하여》福岡朝鮮初級学校

～すべては子ども達の幸せと成長のために～

후쿠오카조선초급학교

五感を動かして…福岡ハッキョの子ども達は秋を満喫しています！

～芋ほり・学芸展鑑賞・福岡海岸～



風雪にたえ今日を生きる。
その青春を胸に明日へと進む。

金 SOLL

FUKUOKA 2021 11.15 [月] 福岡サンパレス 大ホール
前売 18:30 後売 19:00

入場料: 1,000円(前売) 3,000円(前売+後売)

主催: 金剛山歌劇団福岡公演実行委員会 後援: 福岡地区朝鮮学校を支援する会

金剛山歌劇団福岡公演チケット(¥3,000)はハッキョでお求めできます

オモ二会給食と保護者会・教職員会共催の教育講演会

ソンセンニムも言わせて！～教育は大人が子どもに送るメッセージ～



金昌和先生は美術界のプリンス！卒業生が母校で教育実習



劇団石福岡公演実行委員会より贈られた合唱台と検温器



ずっと残したい一枚の写真



劇団石と福岡公演実行委員会のみなさんと

福岡ハッキョ支援一口千円募金運動 月額1000口を目標に卒業生、同胞と世界に向け支援を呼びかけております。一人の100万円は大切、千人の1000口は素晴らしい。宜しくお願いします。

ウリマルが私にくれたもの

「人間は人間に生まれるから人間なのではない。人間として育てられることで、人間になるのである。」
どこかでこの言葉を耳にしたとき、妙に納得ができた記憶がある。それでは、私たちが「チョンサム(朝鮮人)」となりえるに必要な要素は何なのだろう。日本に住む朝鮮人にとって、それは言葉ではないだろうか…



余京香教員

国や民族によって虹が何色に見えるかが違うという話は、かなり有名である。朝鮮や日本では虹は七色だが、アフリカのとある地域では虹は一色に見えるらしい。一般的に人間は約100万の色の識別できるそうだが、国や民族、地域によって、人々の視覚に違いがあるのだろうか。答えはノーである。人間はたくさん色の識別できるが、国や民族、地域によってそれらひとつひとつを表す言葉の範囲に違いがあったり、そもそもその色を表す言葉がないためである。
朝鮮で赤(パルガンセツ)といえ、鮮やかな赤や朱色を表す。しかし、アフリカのとある地域では、赤には私たちのいう黒も含まれている。その地域には、黒を表す言葉がないのである。言葉がないので、他の色と同じ言葉で表現するしか方法がない。そのため、その地域では虹は一色と認識するのである。

このように言葉と認知能力には深い関わりがあり、この関わりは人間のアイデンティティの形成に強い影響を及ぼすと私は考えている。曾祖父、祖父の代から日本に住み、日本の文化や言葉に慣れ親しんで育ってきた私たちのもの、考え方は、極めて日本的である。ストレートに感情を表現する元来の朝鮮民族の気質よりも、控えめに表現することが奥ゆかしく上品であり、慣習・作法であると考えている同胞も少なくないだろう。(あくまで一例である)。「わびさび」という言葉のニュアンスも肌で理解することができる。しかし、私たちの中には朝鮮民族の血が流れている、正直ときどきのちぐはぐに混乱することもある。俗にいうアイデンティティ、つまり「私は誰なのか」という正体性や自尊心の問題である。

日本に住む朝鮮人ならば、誰もが通る道であろう。朝鮮学校に通っていても通ってなくても、いずれ疑問に思うことはない。かく言う私も、その道を通ってきたひとりである。しかし、私は結論を出すのがはやかった。なぜなら、「ウリマル」(朝鮮語)が私に答えをくれたからである。私たちの祖国は北朝鮮ではなく「チョンサム(朝鮮)」であるし、学校では「クゴ(国語、つまり朝鮮語)」を学ぶ。ありがたいより「コマッソンミダ(ありがたい)」の方が心が通じる気がする。私の名前は通称名の片山京香ではなく余京香(ヨ キョンヒャン)である。まさしく私は「チョンサム(朝鮮人)」で、それは揺るぎない。しかし、朝鮮学校でウリマルに出会っていなければ、今の私はいないだろう。肉体は存在しても、チョンサムとしての私のアイデンティティはさまたげられていたかもしれない。きっと朝鮮に生まれた朝鮮人ならば、自分の存在について疑問に思うこともなかったであろう。しかし、私は日本に生まれ、ウリマルをもってしてチョンサムとなりえたことを誇りに思う。言葉が人間のアイデンティティを形成するすべての要素だとは決して思わないが、朝鮮学校や同胞社会において、言葉というものはとても大事なものである。

私たちがチョンサムとして育てられ、誇りを与えてくれる宝物なのである。

「余先生のアボジは本校卒業生で私の先輩にあたり、オモ二は九州朝高時代の親しい同級生。彼女は私が知るご両親の良いところをしっかりと受け継いでいる。学生の頃から地道に学習力を積み上げてきている余教員。思考力が深く、落ち着きがある。情も厚いうえ、よく笑い、しかも涙もろい。」【カバ先生】

